



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

主の昇天 C年 (2022年5月29日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 1章1—11節

第二朗読：ヘブライ人への手紙 9章24—28、10章19—23節

福音朗読：ルカによる福音書 24章46—53節

...

第一朗読では4節の「彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた」に注目してください。ユダヤ人にとって食卓を囲むことは大切な意味がありました。それは宴であると同時に、神の祝福を分かち合う場面でもあったからです。イエスさまは弟子たちに命じていますが、これは指図とか指示というよりも、祝福を分かち合う食卓でなされたのですから、神さまからの祝福を受けとるという意味があるでしょう。祝福のなかで新しい使命が授与されたのです。

第二朗読では24—28節にある「現れ」が印象的です。新共同訳を見ますと、三度「現れる」とあります(24、26、28節)。24節では「今や」とありますから、現在継続中の出来事として「現れる」こととなります。26節では「世の終わりにただ一度」とありますので、すでに実現したこと、あるいは過去に完了した出来事として「現れる」こととなります。28節は「現れてくださるのです」とありますから、これから起こる将来のこととして「現れる」のです。つまり、過去、現在、将来にわたってキリストは「現れる」ことをこの部分は伝えたいのです。

しかし、ギリシア語原文をよく読んで見ると、この三度の「現れる」は別な動詞が使われていることに気づかされます。24節の「神の御前に現れてくださった」では動詞は「エンファニゾー」εμφανίζωという単語です。英語でなにかを強調することをエンファサイズと言いますが、そのもとになったのがギリシア語のエンファニゾーです。天の神さまの御前で今やハッキリと見えるようにされてるという意味でしょう。フランシスコ会訳を見ますと、「そして今、神の前に立ってわたしたちのために執りなしておられるのです」となっています。なぜこのような訳となったかは不明です。

26節は「ファネロー」φανέρωというギリシア語です。ファネローとは、「長い間、覆い隠されてきたものが、はっきりと明らかにされること」を意味するそうです。このことばは、ステージや舞台上に登場しようとしている役者、登場するまでは隠れていますが、すでに出てくる用意はできている、という

場合に使われた語だそうです。

28節では「ホラオー」ὁράω という単語が使われています。突然に、神が現れて人と出会うことを意味します。

福音朗読では50節にある「ベタニア」という地名が気になります。イエスさまはエルサレムに來ると、ベタニアを本拠地にして、そこからエルサレムへと通われました。そこにはマルタとマリアという二人の姉妹が住んでいました。イエスさまを喜んで迎え入れた家です(10章38節参照)。弟はラザロでした(ヨハ11章参照)。このベタニアでマルタとマリア姉妹のマリアはイエスさまのことばに専心しました。

しかし、もう一つベタニアと呼ばれる場所があります。それは、イエスさまがヨハネから洗礼を受けられたヨルダン川東岸です(ヨハ1章28節)。現在はアル・マグタスと呼ばれています。ここでは、伝承によれば、40年間荒野をさまよったイスラエルの民が約束の地に入る際にヨルダン川を渡った場所だとされています(ヨシュ3章参照)。また、預言者エリヤがエリシャと共にヨルダン川をせき止め、東岸に渡った後に天に上げられた場所です(列下2章8-14節参照)。

今日の朗読にある「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された」(ルカ24章50節)のベタニアとは、エルサレムの近くのベタニアかもしれませんし、ヨハネが洗礼を授けていた場所なのかもしれません。しかし、もしかしたら象徴的な意味がこめられているのかもしれません。マリアがイエスさまのことば、つまり、いのちのことばに専心して聞き入ったように、そして、ラザロが死からよみがえった、つまり、いのちを回復したように、そして、ヨハネからの洗礼を通じてイエスさまが救い主としての使命を明らかにしたように、ベタニアとは悔い改めといのちの回復に関連する象徴的な場所だったのです。

主の昇天の場所

どこかですでに話ったかもしれませんが、聖地を二度訪れて、主の昇天の場所にも二回行きました。そこには小さなチャペルがあります。そして、ここからイエスさまが昇っていったという岩があります。初めてそこを訪れたときは何も感じませんでした。「ここからイエスさまが昇っていったという岩? そんなの嘘っぱち」としか思っていませんでした。しかし、二度目に訪れたとき、とても感動しました。実はこのチャペルは、イスラム教の方々にとっても大切な場所なのだそうです。そして、多くの人々がキリスト教徒であれ、イスラム教徒であれここを訪れます。ですから、朝早い時間に訪問しないと人でごった返します。不思議な光景です。キリスト教の人々とイスラム教の人々が一緒になって、ここからイエスさまが昇られたという岩をなでて祈っているのです。すごく祈りの雰囲気があります。

暗い小さなチャペルを出ると、外は真っ青な空が広がっていました。「あっ、やっぱり、ここからイエスさまは天に昇られたんだな」と素直な気持ちになりました。